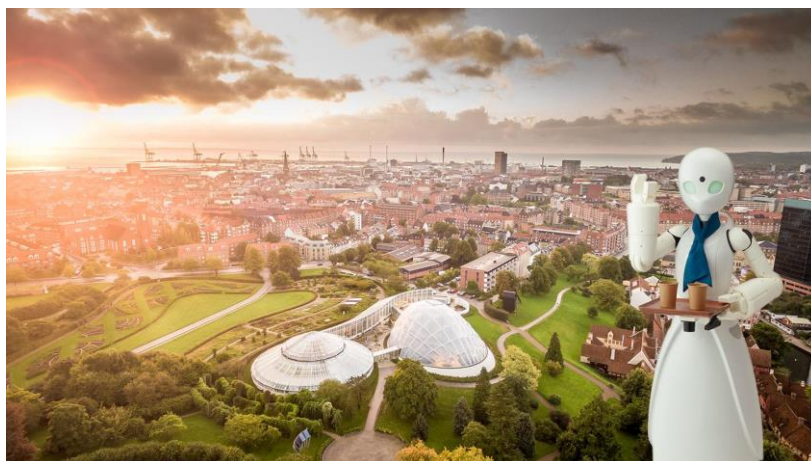


デンマーク国オーフス市にて 「Bunshin Robot Cafe Øens Madhus」が決定！ 分身ロボットOriHimeで働ける 初の海外店

2025年4月2日(水)から9月30日(火)まで
現地在住者のOriHimeパイロット育成・遠隔就労推進を目指す



「人類の孤独の解消」を創業理念とし、分身ロボット「OriHime」（オリヒメ）などの開発・提供を手掛ける株式会社オリィ研究所（本社 東京都中央区、代表取締役 吉藤健太郎・笹山正浩 以下オリィ研究所）は、難病や重度障害などで外出困難な人が分身ロボットを操作して接客をする「分身ロボットカフェDAWN ver.β」の初の海外展開となる期間限定カフェ「Bunshin Robot Cafe Øens Madhus（分身ロボットカフェ ウーエンスマーフス）」がデンマーク国オーフス市（Aarhus Kommune）にて開催することが決定しました。（<https://bunshinrobot.orylab.com/ja>）

オーフスでの開催は、2025年4月2日(水)から9月30日(火)までの6ヶ月間。会場はAarhus Ø（オーフス島）に位置するソーシャルダイニング「ウーエンスマーフス（Øens Madhus）」で行います。東京日本橋にある分身ロボットカフェDAWN ver.βと同じく、病気や障害で自宅から出られずこれまで就労が難しかった人が、分身ロボット「OriHime」を遠隔操作し働くことでスタッフの一員となり、社会参加を可能とするカフェとなります。

今回のポップアップカフェは、FO-Aarhus、社会的企業であるTeknologi i Praksis、オーフス市の健康・福祉・社会雇用部門の協力のもと開発されました。日本国外では初めての試みの「Bunshin Robot Café」は、高齢者や子ども連れの家などオーフス市民人々を迎え、人々の存在をそばに感じられるあたたかなカフェ体験の提供を目指します。

当社オリィ研究所では海外進出を行うため新たにグローバル展開チームを発足。今回のデンマークでの開催が初事例となります。いまや世界的な課題と認識された「人類の孤独」という問題を解消するため、事業を国際的に展開してまいります。



【デンマーク開催の背景】

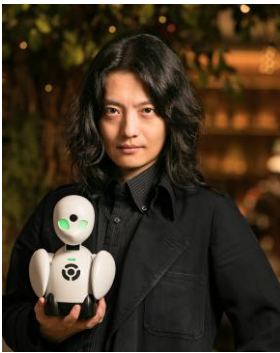
オリィ研究所とデンマーク国の関係は深く、2016年からオーフス市において分身ロボットOriHimeを使った交流や現地大学との共同研究を行ってまいりました。2021年に初めての分身ロボットカフェが東京にオープンした直後から在日デンマーク大使館関係者をはじめ、デンマーク政府の高齢福祉大臣、オーフス市医療介護担当市議員などデンマーク本国からもたくさんのご視察を受け入れていました。こうしたご縁が実を結び、今回デンマークのオーフス市にて海外初の分身ロボットカフェを開催する運びとなりました。

デンマーク国は「世界幸福度ランキング」で常に上位を占める国として知られていますが、国民の安心や幸福を支える高い福祉制度を維持するために、テクノロジーの導入を国家として推進しているという背景があります。こうして政府が整備する充実した福祉制度のもと、全ての人が社会参加し働き続けられる環境を作ろうとする自治体の姿勢や、「ヒュッゲ」に象徴される人と人との繋がりを大切にする文化や国民性に、リレーションテックによって孤独解消を目指す私たちの取り組みとの強い共通性を感じ、この地での開催を決断しました。

今回のプロジェクトでは、初の試みとして現地に在住する移動困難者を採用、OriHimeパイロットとして教育し現地障害者雇用の創出にチャレンジしています。また日本の分身ロボットカフェで経験を積んだ公認OriHimeパイロットたちも海を超えて加わることで「距離や文化を超えた同僚感」を持って働き続けられる就労スタイルにも挑戦します。

今回の取り組みが「分身ロボットを通じた新しい社会参画のしかた」を世界に広く知っていただくための第一歩となり、地元オーフス市民はもとより、世界中で受け入れていただけるカフェを目指します。

【オリィ研究所代表 吉藤オリィ】



私達は2012年の創業以来、「人類の孤独の解消」を理念として掲げ、いまや世界共通の課題である“孤独”という問題に挑み続けています。2016年にデンマーク大使館へOriHimeを導入いただいた時より、「孤独の解消」をテーマにデンマークの仲間や政府関係者の皆さまと意見交換を続け、海外展開を行う際にはまずデンマークで実現したいと長い時間をかけて準備を進めてまいりました。

ついにこのたび、私達にとって初の海外展開となる「Bunshin Robot Cafe Øens Madhus」を、デンマーク・オーフス市にて開催できる運びとなりましたことを、心より嬉しくご報告いたします。本カフェでは、デンマーク現地の移動困難な方々にOriHimeパイロットとして訓練を積んでいただき、さらに日頃から私達と共に働く日本のOriHimeパイロットも参加し、共にサービスを提供いたします。移動が困難な方々でも、分身ロボット「OriHime」を通じて8000km以上離れた仲間と“同じ職場で働く”感覚を共有しながら、お客様に楽しい時間をお届けできるのか。新たな挑戦・研究が始まります。身体事情や生まれた地、物理的距離や言語すらも乗り越え、人々が孤独から解放される新たな選択肢を切り拓くことを目指し、私達は今後も邁進してまいります。

【DokkX代表 キルステン・ルッド・ベントルム】



私たちTeknologi i Praksisは、革新的な「分身ロボットカフェ」が初の日本国外開催地としてデンマークのオーフス市を選び、一緒にプロジェクトを進められることを大変嬉しく思っています。

私たちのような社会的経済企業にとって、障害を持つ人々が他の人々と対等な条件で社会の一員となり、孤独や排除を防ぐための新たな技術的機会を創出する手助けをすることは、大きな意味があります。

私たちは、このプロジェクトを支援し、分身ロボットOriHimeが人が遠隔で仕事をこなすためのツールとして使われ、今後も可能性を広げていくことを楽しみにしています。OryLabとは長年にわたり協業しており、今後も良好で発展的な協力関係が続くことを楽しみにしています。

【Bunshin Robot Cafe in Aarhus】

【会場名】

ウーエンス・マーフス (Øens Madhus)

<https://www.oensmadhus.dk/>

<https://www.instagram.com/oensmadhus>

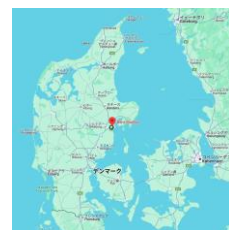
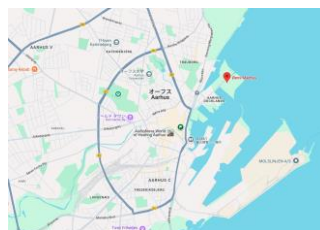


ØENS MADHUS

【所在地】

Thit Jensens Gade 3, 8000 Aarhus, DM

<https://maps.app.goo.gl/yjLga2ExeAort5U5A>



【開催期間】

期間 : 2025年4月2日(水) ~9月30日(火)

営業時間 : 平日9時~20時、土日9時~16時

【プレス体験会】

日時 : 2025年4月2日(水) 10:30受付開始 / オープニングセレモニー 11:00スタート

【プログラム】

◎11:00

開会挨拶: クリスチャン・ブッデ保健福祉担当評議員 / アネット・ポールセン、社会問題・雇用担当評議員

◎11:15

プロジェクトのパートナー Technology in Practice、FO-Aarhus、VIA、Aarhus University のご紹介

◎11:25

OryLab.共同創設者兼CVO吉藤オリィによるプレゼン

◎11:35~12:00

BunshinRobotCafeの体験~OriHimeパイロットによるサービスを体験。※軽食をご用意

※関係者及びプレスのみ入場可 取材をご希望のメディアの方は pr@orylab.com (広報: 濱口) まで

【その他バリアフリー情報】

◆バリアフリースイール: 併設しています

◆提携駐車場: あり

【Bunshin Robot cafe Øens Madhus】 連携先一覧

■主催



Aarhus Kommune
(オーフス市)

■協力



Teknologi i Praksis

Teknologi i Praksis
NGO法人テクノロジーインプラクティス



FO Aarhus
(市民のための教育機関)



AARHUS UNIVERSITY

Aarhus University
Aarhus大学



**VIA University
College**

VIA University College
VIA大学



MOONSHOT
RESEARCH & DEVELOPMENT PROGRAM



**Cybernetic
being**

■会場

ØENS MADHUS



Øens Madhus er en
socialekonomisk café i
Generationernes Hus
på Aarhus Ø.

関連情報①

会場：Øens Madhus (日本語での意味：島の食堂)

- Øens Madhusは社会経済的カフェのため、身体的または精神的障害を持つ従業員を多数雇用しています。
- フレックスジョブで雇用されている従業員や、自発的に働いている従業員や職業体験プログラムに参加している従業員もいます。
- 私たちは、さまざまな人々やニーズを受け入れる余地のある職場を作るために、良い条件を作り出そうとしています。
- 2021年にはオーフス市障害者賞を受賞しました。なぜならØens Madhusは、障がい者が平等な労働力として注目されている職場だからです。誰もが歓迎される非常に多様な場所なのです。
- カフェにはさまざまな人が訪れます。このビルに住んでいる人も、外部からいらっしゃるゲストもいる。
- Øens Madhusのマネージャーはフレデと呼ばれている。Fredeは以前、『Fredes Flyvende Tallerken』を経営していた。

店の歴史

- Øens Madhus は、FO-Aarhusが運営する Generationernes Hus の社会的経済企業です。
- 私たちの最も重要な任務は、何らかの理由で労働市場から外れている人々のために雇用を創出することです。Øens Madhus では、身体または精神に障害を持つ従業員が多数雇用されており、日々の業務に携わり、自身のスキルを活かして、Øens Madhus をゲストと従業員の両方にとって素晴らしい場所にするために貢献しています。

多様性に富んだキッチン

- キッチンにいるのは、以前地元で Fredes Flyvende Tallerken を経営していた Frederik Pedersen 氏です。「フレデ」さんは長年の経験を持つシェフです。
- 彼がØens Madhusの建設に協力したのは、Generations Houseで日々の生活を送るさまざまな世代の出会いの中にも存在する多様性の価値を理解しているからです。

2021年障害者賞受賞

- 2022年12月2日は、Øens Madhusにとって非常に特別な日でした。2021年度オーフス市障害者賞を受賞しました。
- 「Øens Madhus は、あらゆる世代を食堂に迎え入れる社会的経済企業としてこの賞を受賞しました。子供、若者、高齢者、障害者、家族が1つの建物に集まっています。障害者は、店の外の人々からも、高度に包摂されたカフェで平等な労働者として注目されています。



関連情報②

店舗が位置する施設：Generationernes Hus (ジェネレーションハウス 世代の家)

- Øens Madhusはジェネレーションズ・ハウスにある。ハウス・オブ・ジェネレーションズは、オーフス市とブラブランド・ハウジング・アソシエーションによって創設された先見性のある住宅・福祉プロジェクトである。ハウスは2017年から2020年にかけて建設された。
- ジェネレーションズ・ハウスの目的は、異なる背景、年齢、生活環境を持つ人々が、同じ屋根の下で生活し、出会うことができるという現代的な試みである。世代も生活環境も異なる人々が集い、出入り自由なコミュニティを作る試み。ゲストや隣人、家の周りの生活を開放し、歓迎する。例えばカフェやコンサートや展覧会などの文化的イベントも開催している。
- Øens Madhusで共同食事会や、談話室での居住者のための様々なクラブ（コーヒークラブ、文学クラブ、美術クラブ、編み物クラブなど）などの共同活動をすることもある。
- 300戸以上の住宅を有しており、高齢者向け住宅/障害者向け住宅/学生向け住宅/家族向け住宅/ケア付き老人ホームが存在する。住宅は混在しており、さまざまな世代が隣り合って暮らしている。世代が異なる居住者が、個室のほかに共同生活する共同住宅もある。
- 住宅の他には保育園や幼稚園児のための託児所、健康クリニック、共有施設としてエクササイズルーム、センサリールーム・ゲストルーム・木材工房、音楽室、創作室、読書室、ゲーム室などがある。多目的ホールは、コンサート、講演会、講座、映画上映会、ワールドカップやヨーロッパ選手権に関連した大画面イベント、毎週火曜日に高齢者がデイケアセンターの子供たちと歌う「音楽とリズム」などに利用されている。このホールは、居住者がさまざまな球技や運動に利用できる。
- 304 戸の住宅の内訳は次の通り（青年用住居40室・家族用住居40室・障害者用住居24室・シニア用住居100室・介護付き住居100室・高齢者用ケア住居200室）



関連情報③

運営団体：FO Aarhus（市民のための教育機関）

- Øens MadhusはFO-Aarhusによって運営されています。FO-Aarhusは全国組織FORAの地方支部です。FORAは大衆教育、つまりすべての人のための学習と教育に取り組んでいます。
- FO-オーフスは1973年にFrit Oplysningsforbund i Aarhusという名称で設立されました。FO-オーフスは教育団体であり、社会経済的企業でもあります。
- この学校では試験はなくただ学ぶだけ！ここでは、試験や成績よりも、生涯学習や一般的な教育を重視しています。FO-オーフスは、誰もが歓迎される多様なコミュニティの枠組みを提供しています。
- 市民教育とは？
 - 市民教育とはデンマークの伝統であり、人々に知識を与え社会と民主主義に積極的に参加できるようにすることである。ポピュラー・エデュケーションは、一般教養を強化し、生涯を通じて学ぶことを目的としています。主に成人を対象としている。
 - 大衆教育はコミュニティに基づいている。教育は人々の民主主義への参加能力を強化できるというグルンドヴィッヒのフォーク・ハイスクールの理念に触発されている。民衆教育は、民衆高校、夜間学校、成人教育センターで行われる。
- FO-Aarhusは何を提供しているのか？
 - さまざまなコースがある夜間学校
 - シニア（高齢者）のための日中フォークハイスクール
 - 講演会やイベント
 - 就職支援プロジェクト
 - 知的障害を持つ若者のためのプログラム
 - 社会経済キッチン



【分身ロボットカフェDAWN ver.βとは】

分身ロボットカフェDAWN ver.βとは「人間の孤独を解消する」を理念に掲げる株式会社オリイ研究所が運営する実験カフェです。重度肢体障害、難病患、家族の看護や介護などの理由で外出や移動が困難な人々が、分身ロボットOriHimeを遠隔操作し、オーダーや配膳、お客様との会話など接客を行うなどし、新たな働き方を開発しています。

2018年から4回の短期イベントを経て2021年6月、東京日本橋に常設実験店を開店。移動困難で就労を諦めていた方たちが分身で働く方法を確立しました。「OriHimeパイロット」として働くのはALSをはじめ難病や重度の障害、様々な事情で今まで就労の機会を得ることができなかった人々です。身体が動かなくてもテクノロジーを導入することで自宅や病院に居ながらにして社会に参加し、人と出会い、誰かに必要とされる新たな方法と、社会多様性のありかたを提唱してきました。

この取り組みの中で「分身ロボットカフェ」でトレーニングを積んだOriHimeパイロットが企業就労を打診される事例が多く生まれたことから、オリイ研究所ではOriHimeパイロットら当事者らと共に、2020年からいち早く遠隔就労にフォーカスを当てた人材紹介を事業化。2023年にはテレワーク特化型人材紹介サービス「FLEMEE」をリリースしました。

たとえ重度障害があっても自分らしく働きたい当事者、障害者法定雇用率を達成したいと考える企業、障害者雇用問題に悩む地方自治体などからの問い合わせが増え、実際に就労に繋がったOriHimeパイロットは延べ100名を超えました。現在、日本電信電話株式会社の総合受付、モスバーガー原宿表参道店、神奈川県横浜市「cafeツムギstation at Yokohama Kannai」、和歌山県白浜町「アドベンチャーワールド」、新潟県長岡市「米百俵プレイス ミライエ長岡」など全国各所で分身ロボットOriHimeを使った就労が広がっています。

このプロジェクトを機に「分身ロボットを活用したテレワーク」という新たな社会参加の形をさらに広く社会実装するため、2022年から各協賛企業の支援を得て全国でのキャラバン形式のカフェ開催に踏み切りました。

(分身ロボットカフェ公式サイト <https://dawn2021.orylab.com/>)

OriHime パイロット

2018年に実施した第一回分身ロボットカフェDAWNで、接客を担当したのは10名のOriHimeパイロットでした。期間限定の社会実験として開始された当プロジェクトも、お客様にあたたかく迎えていただきながら、仮説検証を繰り返してきました。仲間を徐々に増やし2025年現在、約90名の公認パイロットが在籍しています。



【分身ロボットカフェDAWN ver.βでのOriHimeを使った接客の様子】



ご注文のドリンクをOriHime-DでOriHimeパイロットがお席までお持ちします。
※写真は東京・日本橋店



遠隔就労体験の研修を受ける特別支援学校の生徒の様子



先輩パイロットから、接客の研修を受ける特別支援学校のOriHimeパイロットの様子

【当プロジェクト受賞歴】

- 2020年6月：**D&AD awards 2020**
 - デザイン・トランスフォーメーション部門ウッドペンシル、
フューチャーインパクトペンシル（日本初受賞）
- 2020年10月：**ACC賞2020**
 - クリエイティブイノベーション部門／総務大臣賞ACCグランプリ、デザイン部門／
総務大臣賞ACCグランプリ、ブランデッドコミュニケーションC部門（PR）／ACCブロンズ
- 2021年3月：**第24回文化庁メディア芸術祭**
 - エンタテインメント部門 ソーシャルインパクト賞
- 2021年11月：**2021年度グッドデザイン賞**
 - グッドデザイン大賞
- 2022年6月：**S+T+ARTS Prize 2022**
 - Honorary Mentions（入賞）受賞
- 2022年7月：**Prix Ars Electronica2022**
 - デジタルコミュニティズ部門 ゴールデンニカ（最高賞受賞）受賞

他、国内外の賞を多数受賞

【株式会社オリィ研究所について】

「人類の孤独を解決する」を創業理念とし、それを実現するリレーションテクノロジーの研究開発を行う。代表的なものとして遠隔操作でありながら「その場にいる存在感」を共有できる分身ロボット「OriHime（オリヒメ）」の開発・製造販売を行う。

OriHimeのほかに、テレワークでの肉体的社会参加を可能にする分身ロボット「OriHime-D（オリヒメディー）」、重度障害があっても目や指先などの僅かな動きだけでコミュニケーションを可能にする意志伝達装置「OriHime eye+Switch（オリヒメアイプラススイッチ）」などをリリース。

2021年6月に分身ロボットOriHimeがサービスする初の「分身ロボットカフェ DAWN ver.β」常設実験店を日本橋にオープン。2023年には、テレワークに特化した障害がある方の就労サポートサービス「FLEMEE」を開始。

公式HP：<https://orylab.com/>



※「OriHime」「分身ロボットカフェ」は株式会社オリィ研究所の登録商標です。

※分身ロボットカフェ DAWN ver.β は内閣府／科学技術振興機構ムーンショット型研究開発事業目標1「身体的共創を生み出すサイバネティック・アバター技術と社会基盤の開発」に参画し、同プロジェクトとの連携のもと本企画を推進します。

：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：：

【本件に関する報道関係者からのお問合せ先】

株式会社オリィ研究所 広報担当：濱口

メールアドレス：pr@orylab.com